



有佐小だより

令和3年 9月24日

第6号

文責 岩見 浩史

子どもたちへ「ありがとう」

ある日、私がそうじの時間に運動場の草取りをしていると、校舎の方から「校長先生、ありがとうございます!」という子どもの声が聞こえてきました。私も「ありがとう!元氣モリモリになったよ!」と応えて手を振りました。別の日、遊具周りの草払いをした日にはグループになって下校している子どもたちから「校長先生、おつかれさまでした!」「ありがとうございます!」と声をかけてもらいました。有佐小学校の子どもたちは、人の心を元気にさせてくれる本当にすてきな子どもたちです。

「ありがとう」という言葉は、かけられた人の心を明るくしてくれます。しかし、実は「ありがとう」という言葉を言った人が幸せになっているのです。「ありがたい」の語源は、「有り難し」。「減多にない」「珍しくて貴重だ」という意味で、言い換えれば「私は、ラッキーです、幸せです!」ということです。何でも「そうあることがあたりまえ」としか思えない子は、ちょっとしたことで不平・不満を感じてしまいます。でも、身の回りのちょっとしたことに「ありがたいなあ」と思える子はのでしょうか。「早くから、朝ご飯を支度してくれてありがたいな」「お洗濯をしてくれたおかげできれいな靴下をはけてありがたいな」「暑い中、私たちの登校を見守ってくれてありがたいな」「今日も一緒に遊んでくれて、楽しかった。ありがとう。」等、色々な「ありがとう」に気付くことができる子は毎日が幸せです。

ぜひ、ちょっとしたことに「ありがとう」と感謝の心を持てる子どもたちに育てていきましょう!そのためには、まず「ありがとう」がたくさん飛び交う家庭にすることだと思います。「今日もちゃんと起きてきてくれてありがとう!」「ご飯をおいしそうに食べてくれてありがとう」「元気に学校に行ってくれてありがとう」「お手伝いしてくれてありがとう」「学校でのことを話してくれてありがとう」など、子どもたちにたくさん「ありがとう」という言葉をかけましょう。

くまもと家庭教育10か条第4条「『ありがとう』は 生きゆく心の 出発点」
ありさ運動「あ」…「あいさつしよう ありがとうと 感謝して」



オンラインで交流・授業にチャレンジ

新型コロナウイルス感染症対策で、集会活動や交流活動などが制限されている中、6年生がオンラインでの交流にチャレンジしてくれました。昨年度、当時の1年生(今の2年生)のために英語劇の準備をしていたのが、コロナ対策のため実施できなかったそうです。9月3日にZoomを使って6年教室と2年教室を結び、パソコンのカメラの前で英語劇「はらぺこあおむし」を6年生が発表しました。9月10日には、1年生にも同じように発表しました。9月14日には、今度は2年生が、6年生に向けて「楽しかった」「絵がきれいだった」と感謝の言葉を述べ、歌を披露しました。6年生も「やってよかったなあ」と思ったことでしょう。いろいろなことが制限されている中、新しいツールを使って工夫し、交流を実現してくれた6年生、ありがとうございます。これからも「コロナだからあきらめる」ではなく、知恵をしぼって「こうやれば、できる」ということをたくさん探してほしいと思いました。それが、「withコロナ」の時代にたくましく生き抜く力を伸ばすことにつながると考えます。



【6年教室で発表】



【2年教室で視聴】



【3年国語のオンライン授業】

県内の新規感染者数は減少してきましたが、いつ誰が感染するか分からない状況は変わりません。万が一学級閉鎖等になった場合、また家族の発熱等で登校できないときでも、子どもたちの学びを止めないために、9月22日(水)にオンライン授業試行の2回目を実施しました。今回は、子どもたちが自分自身でネットワークに接続し、学校とやりとりができること等を目標にしていました。結果は、きちんと接続できた子が96.3%(1学期の1回目89.8%)ということで、子どもたちの技能が高まっていることが確認できました。家庭からの接続も83.3%と前回の65.7%を大きく上回りました。ご協力ありがとうございました。何回も使ってみることで、子どもたちも職員もネットワーク接続やオンライン授業にさらに慣れていくことでしょう。

